

平成 29 年 12 月 31 日

南の風ウインターカップ特集号Ⅱ

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

大阪桐蔭対安城学園の後半です。大阪桐蔭は、3Qもゾーンディフェンスを敷きます。安城は、8番千葉のこの日5本目の3Pが決まり点差を広げます。大阪桐蔭はゾーンディフェンスの足が止まり、シュートも決まらなくなります。ここで大阪桐蔭はタイムアウト。タイムアウト明けに安城学園は、8番千葉の2Pショットが決まり、このゲーム最大の14点差をつけます。離されたくない大阪桐蔭は、8番永井ミドルショットやフリースロー、15番竹原のポストショットで食らい付きます。一方安城学園は、13番野口、6番出羽、4番上村のショットで対抗します。その後も一進一退となりますが、安城学園が主導権を渡さず、55対45で3Qが終了します。

最終の4Q、後がない大阪桐蔭は7番小田垣のショットやフリースロー、11番田中のミドルショット、6番鈴木の本の3Pで1点差に詰めます。安城学園は、7番相澤のミドルショットやフリースロー、4番上村のジャンプショット、13番野口の3Pで再び引き離しに掛かるが、大阪桐蔭も負けじと8番永井のカットインや3P、15番竹原のジャンプショット、そして6番鈴木の本の3Pでついに同点に追いつきます。その後両チームタイムアウトを取り決着を図るがショットが決まらず、オーバータイムに突入しました。

オーバータイムに入り、まず先手を取ったのは大阪桐蔭。6番鈴木がこの日7本目の3Pを沈めます。さらに8番永井のミドルショットも決まり、71対66と大阪桐蔭がリードします。安城学園も応戦し8番鈴木の本の8本目の3Pと10番深津の本の3Pで72対71と逆転します。その後、大阪桐蔭7番小田垣のフリースローや4番永田の本の3P、安城学園13番野口のジャンプショット、10番深津の本のミドルショットと激しい展開となりますが決着がつかず、ダブルオーバータイムにもつれ込みます。

ダブルオーバータイムで先手を取ったのは安城学園。10番深津のフリースローや7番相澤のジャンプショットが決まり、80対76とリードします。大阪桐蔭はシュートがリングに嫌われ2分間ノーゴールとなります。残り3分のところで7番小田垣の本の力強いドライブショットが決まり、78対80とします。安城学園は8番鈴木がフリースローを決め、82対78とします。大阪桐蔭はすかさず、6番鈴木がこの日8本目の3Pを沈め81対82となります。続けて6番鈴木の本のジャンプショットも決まり、83対82と大阪桐蔭が逆転します。しかし安城学園7番相澤がジャンプショットを入れ返し、84対83と逆転します。大阪桐蔭はタイムアウト。その後残り時間51秒で、大阪桐蔭6番鈴木がフリースローを1本決めて再び84対84の同点になります。そして決着の時が訪れます。残り時間6秒で、大阪桐蔭18番小林選手の本のジャンプショットがリングを捉えます。安城学園はすかさずタイムアウトです。安城学園13番野口選手の本のシュートが外れたところで万事休す。大熱戦に終止符が打たれました。

大阪桐蔭86対安城学園84。大激戦の死闘は幕となりました。**両チーム選手の皆さんに心をこめて「感動をありがとうございました！」そして大阪桐蔭の選手、スタッフ、関係者の皆さんに「おめでとうございます！！」そして、敗れはしましたが安城学園の選手の皆さんに「一心不乱の大健闘！お疲れ様でした！！」と伝えたいと思います！！**

このような歴史に残る好ゲームをライブで観戦できたことは至福のひとつでした！！